

第7節 その他構内の調査

1. 秋穂団地(ヨット艇庫)浄化槽改修工事に伴う確認調査

調査地区 山口市秋穂東706-2

調査面積 4.5㎡

調査期間 平成21年12月3日

調査担当 横山成己

調査結果 山口市秋穂に所在する本学ヨット部のヨット艇庫敷地において、浄化槽の改修工事が計画された。団地は草山崎と赤石鼻に挟まれた内湾中央部に位置し、ヨット庫は自然形成された浜堤上に立地しているように見受けられる(写真162)。団地周辺には、密とは言えないながらも周知の埋蔵文化財包蔵地が散在しており、特に北東背後に聳える丘陵には中道古墳群が存在している(図71)。団地に対しては、昭和59年(1983)に1度確認調査が実施されているが、埋蔵文化財は確認されなかった。今回の工事計画では、面積は4.5㎡と狭小であるものの、掘削深度は2.5mに達するものであったため、再度確認立会調査を実施することとした。

調査時にはすでに掘削は完了していたが、安全確保のため掘削坑内に留まる時間を最短とするため、坑北壁のみに断面精査を実施した。調査の結果、現地表下1.5mと1.9mに黒色砂層を確認したが、断面に遺物は確認されなかった(写真163)。

秋穂地区海岸部においては、古墳時代以降製塩産業が断続的に行われていたことが指摘されている。秋穂団地に関しては、掘削を伴う工事計画が立案された場合には出来る限りの確認調査を実施する必要があるだろう。

【註】

1) 河村吉行(1985)「ヨット部艇庫合宿研修所整備に伴う立会調査」,山口市埋蔵文化財資料館(編)『山口市構内遺跡調査研究年報Ⅳ』,山口



図 71 調査区位置図



写真 162 調査区遠景 (北から)



写真 163 北壁土層断面 (南から)